

緑生瓦版

2008.11.01

第十七号

岡山県のナゴヤ ダルマガエルとの出会い

お恥ずかしい話ですが、最近初めてナゴヤダルマガエルにお目にかかりました。ナゴヤダルマガエルには名古屋種族と岡山種族という二つの種族があり、特に岡山種族の生息場所は限定され、絶滅が危惧されているカエルです。

幸運にも詳しい知人に案内してもらった機会を得ましたので、観察に行きました。数年前までたくさん確認できたという水田で一個体捕獲することができました。はじめは俊敏なカエルを想像していましたが、実際に捕獲してみると明らかにトノサマガエルとは異なり、動きが緩慢で驚いてしまいました。これで実際に自分で確認した日本国内の両生類は四十七種。残りの小型サンショウウオと離島の両生類が厳しいですが、今後がんばって自分の確認種を増やしていきます。

大阪支所

後藤 和郎

緑生研究所って、どんな会社…？

～ 新たな生物調査の巻 ～

映像への取り組み



主な撮影機材



私達は多くの生き物に囲まれて生活していますが、普段、私達が目にしている生き物やその姿はそれらのほんの一部です。夜行性で人目につかないもの、警戒心が強くて人前に姿を現さないもの、遠くて(小さすぎて)見えないもの、動きが速くて(遅くて)目にとらえることができないものなど肉眼では見ることができないものや、見えているようで意識して見ていないものがほとんどです。これらの普段見ることのできない生き物の姿をとらえるときに、ビデオカメラ等の撮影機器は大きな力を発揮します。

緑生研究所では、様々な生き物の撮影に積極的に取り組んでいます。タヌキ等の中型哺乳類を対象とした夜間の撮影、鳥類の営巣状況や、セミの羽化等の昆虫の生態映像の撮影のほか、撮影した映像を編集し、展示やプレゼン用の映像の製作も行っています。(調査部 金子賢太郎)



これまでに業務で撮影した生態映像の例としては以下のようなものがあります。

- ・ 中型哺乳類の生態映像
- ・ 鳥類の繁殖や生態映像
- ・ チョウ、トンボ、セミ等の昆虫の生態映像

写真だより



アカハラダカ *Accipiter soloensis*

小型のタカでツミと同程度の大きさです。ユーラシア大陸東北側で繁殖し、東南アジアで越冬します。国内では、主に秋に九州から南西諸島にかけて数万羽が通過します。島根県で抱卵している個体が確認されましたが、繁殖の記録はありません。

マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum*

アキアカネやノシメトンボなどと同じく、普通にみられるアカトンボのひとつで、顔の正面にある一対の黒色斑が人の眉毛のように見えることから、この名が付けました。日本全国に分布し、おもに平地から低山地の池や湿地、水田などに生息しています。



アンケートのお願い！

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えて下さい。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、緑生研究所(坪山)宛に FAX(042-487-4334) でお願いたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。

第十八号は、年明け平成二十一年一月一日の発行を予定しています。

新年号では特集はお休みいたしますが、新年に向けての当社のモチベーションを伝えるお伝えいたします。

だいぶ涼しくなり、街なかの銀杏並木の葉も色づきはじめてましたが、毎朝ホームから見える高尾山は「もみじ狩り」にはまだ早いです。

紅葉の時期に色づいた木々を楽しみながら、薬王院をめぐる、ふもとで蕎麦をすすするの、良いものです。ただし、紅葉が見頃になる十一月中旬には、多くの人でにぎわいますので、「風流」というのは、ちょっと難しいかも…。



コラム

